

◆科目名：工芸Ⅲ（2単位）

◆講座数：2講座（9名／17名）

◆課題設定の目的（ねらい）

- ① 日常生活で使うものを革で作るという経験を通して、自己を取り巻く生活を多様な視点に立って考え、独創的に発想し、美的で心豊かな制作の構想を練る力を身につけさせる。
- ② 素材としての革がもつ性質や特徴を理解し、制作過程全体を見通して制作方法を工夫する力を身に付けさせ、個性を生かした創造的な制作を追求させる。

◆対象生徒

工芸Ⅲ（2単位）選択者。3学年の文系選択科目で、家庭科・体育・理科等と同じ選択群の中に芸術の各科目が位置付けられているため、工芸ⅠおよびⅡ（1，2年生は芸術が必修／音楽，美術，書道，工芸の4科目から選択し、それぞれⅠ，Ⅱを連続で履修する）より選択者が少なく作業場所や道具、個別指導の面から見てゆとりのある環境で制作出来る。

◆要した時間

約30時間（1学期の全部と2学期の前半）

◆展開

- ① **発想**／自分の生活を見まわし、革で作ったら便利なものがないか考える。生活の中で不便に感じていることはないか、今ほしいと思っているものがないか、それは革で作れるものか、革で作るとしたらどんなものが出来るのか…等について生徒同士で意見交換させる。また、ペンケースなど自分の持っているものをよく観察して構造の研究をする（革製品でなくても応用できる部分がある）。
- ② **構想をまとめる**／できるだけ沢山アイデアを出し、スケッチを重ねてデザインを決める。アイデアを絞り込む段階で、生徒自身に自分はどのような理由でそれを革でつくりたいのか、構造はどうするのか、金具が必要なのか、それはどのような金具なのか…といったことについて言葉で説明をさせ、曖昧なところがあれば教師側から発問し生徒の考えていることや、やりたいことを明確にし、その上で構造や技法が適切であるか、また実現可能かどうか検証する。
- ③ **模型を作る**／工作用紙で模型をつくり、サイズや構造の検討を重ねる。マチのある作品であれば、接合の仕方が何種類も考えられるので、より適したやり方を考える。必要な金具等もこの段階で決める。
- ④ **型紙づくり**／デザインや構造を模型で十分検討したら、型紙を起こす。
- ⑤ **染色**／必要なサイズの革を準備し（一人あたり1.4mm厚の革が15センチ程度、補助的に使う0.6mmは分量外で、必要な者に必要なだけ与える）染料で革を染める。ムラになりやすいので、予め革に十分な水分を与え、薄めた染料を何度も染みこませるようにする。
- ⑥ **床面の処理**／染めた革を十分に乾燥させ、銀面につかないよう気をつけながら処理剤を塗り、磨く。
- ⑦ **裁断**／型紙を効率的に材料が取れるよう革の表面に配置し、丸錐で輪郭を丁寧に写し取り裁断する。革包丁は高価な上に扱いが難しいため裁断にはカッターを使用する。
- ⑧ **仕立て**／模型をよく見直し、構造を踏まえて接着や縫い合わせる順序を注意深く考えながら組み立てる。接着する前に縫い目穴を開ける場合と、接着してから縫い目穴を開ける場合がある。また、財布のポケット部分等組み立てる前に縫い合わせるべき部分や、全ての革を重ねて最後に縫い合わせなければならない部分があるので順序をよく考えて作業をする。金具を取り付ける位置、タイミングもよく考え、取り返しのつかない失敗をしないよう気を付ける。刻印やカービングを施す場合は、組み立ての前にする。
- ⑨ **手縫い**／菱目打ちで慎重に縫い目穴をあけ、左右の針が入る順序、糸の重なり方が規則的になるよ

う気をつけ、縫い目がきれいに揃うよう丁寧に縫い合わせる。糸には充分ワックスを擦り込む。

⑩ ヘリ（コバ）の仕上げ／鑢をかけて形を整え、染料で色を付けてから、処理剤を刷り込んでよく磨く。ヘリの仕上げが作品の出来映えを大きく左右するので神経を使う。

⑪ 銀面の処理／表面保護用のオイルを薄く全体に伸ばし、丁寧に磨く。

◆材料

牛革（1.4 mm/0.6 mm）、染料、各種金具、手縫い用麻糸、糸用ワックス、床面処理剤、表面保護材、その他

◆用具

○模型及び型紙制作／工作用紙、定規、カッター、糊他○染色／水刷毛、染料刷毛、新聞紙、染料、他

○床面処理／床面処理剤、ウエス、ヘリ磨き○裁断／丸錐、カッティングマット、定規、カッター他

○仕立て／接着剤、目玉クリップ、菱目打、ゴム板、木槌、手縫い針、金具打棒、金具打ち台他

○仕上げ／綿棒、ヘリ磨き、ウエス他

◆評価

○観点別題材の評価基準

【工芸への関心・意欲・態度】（表現）使う人の気持ちや使用する場などを考えて革で制作することに関心を持ち、主体的に発想して制作の構想を練ったり、制作方法を理解し、創意工夫して制作したりしようとしている。（鑑賞）他の生徒の作品や工芸作品などに関心を持ち、主体的に作品の良さを感じとり、生活や社会における工芸の働きについての理解を深めようとしている。

【発想や構想の能力】感性や想像力を働かせて、身近な生活や社会的な視点から独創的に発想をし、よさや美しさなどを考え、美的で心豊かな制作の構想を練っている。

【創造的な技能】創造的な工芸の制作をするために、革工芸に必要な技能を身に付け、表現方法を創意工夫し、個性を生かして創造的に表している。

【鑑賞の能力】工芸作品などの表現の工夫や工芸の伝統と文化などの理解を一層深め、自己の価値観や美意識を働かせて、そのよさや美しさを創造的に味わっている。

※以上の観点から、アイデアスケッチ、メモ、模型、型紙、革工芸作品、制作へ取り組む姿勢、制作の意図や他の生徒作品に対する発言内容等から総合的に評価をする。

◆生徒の反応

例年導入の段階から生徒の反応はよく、熱心な取り組みを見せる。ファスナーや金具などはカタログを用意し、可能な限り生徒の要望する物を取り寄せるようにしているので、モチベーションも上がるようだ。マチのある複雑な構造のものに挑戦する生徒が多く、授業中は皆作業に没頭している。

発想の段階から完成に至るまで、互いの作品について盛んに意見交換する場面も見られる。

カタログに無い部品や金具などについては、自分で専門店へ出向いて探してくる生徒もいる。

工芸Ⅱの授業で基本的な革の扱い方は一通り習得しているの、そこから独自の工夫を重ねて、レベルの高い作品を仕上げる生徒が多い。

